

この度、JALSG Young Investigator ASH travel Award でのご厚意を頂き、第 58 回米国血液学会(ASH)に参加させていただきました。国際学会の参加は初めてであり、参加前は正直かなり不安でした。学会参加を終えてみて、規模の大きさ、参加人数の多さに大変驚かされ、日本では味わえない貴重な経験ができたことと実感しています。

2016 年度の ASH はサンディエゴで開催されました。サンディエゴまでは成田から直行便がありますが、飛行機の手配が遅れた私は直行便のチケットを取れなかったためロサンゼルス国際空港経由で現地へ入りました。

サンディエゴはメキシコ国境に近い、アメリカ西海岸有数の大都市です。会期中は天候に恵まれ、温暖な気候のもと快適に過ごせての学会参加でした。私はリトル・イタリーという地区のホテルに滞在しました。学会会場までは ASH の巡回バスが運行されており、滞在したホテルの近くにも立ち寄るため毎日利用しました。

各 Session が同時並行で行われ、興味のある講演が重なることも多々あるので一日の予定を事前に立てておくことは必須です。無料アプリが利用でき、非常に便利で快適でした。

以下に聴講した興味深かった講演を簡単に記させていただきます。

Haplo 移植の GVHD 予防として、ultra low dose Il-2 を用いた pilot study が報告されており、非常に興味深い内容でした。ultra low dose Il-2 投与を day84 に終了した後に GVHD の発生頻度が増えるなど、これからの課題はいろいろありそうでした。ただ今後も Haplo 移植の需要は高まるので、有用な手段となりうるのか Phase II study が進行中で続報が期待されます。

MDS に対する PD-1 阻害薬を用いた検討では単剤では効果を認めないものの、脱メチル化剤との併用では治療成績の向上を認めており、続報が待たれる内容でした。

教育講演は最近の報告を踏まえた上で疾患のまとめがなされており、普段診療している内容を違った角度から見つめなおす機会にもなりました。AML のセッションでは BPDCN(Blastic Plasmacytoid Dendric Cell Neoplasm)について詳細に説明されており、AML や ALL に準じた治療成績が芳しくない一方で SL-401 の比較的良好な治療効果についてもまとめられていました。

ポスターセッションは、かなり多くの演題があり、テーマを限って見て回るだけでも時間が足りませんでした。あちらこちらでポスター内容について活発な議論がなされており、日本の学会では味わえない雰囲気がありました。

今回、学会参加の機会を頂けただけでなく、JALSG の高名な先生方とお話させていただける懇親会にも参加させていただきました。また同じ年代の他の travel Award 受賞者とも知り合える貴重な機会となりました。

ここには記しきれない些細なことでも学会中に経験できたことは、私にとっては初めての体験であり、貴重なものとなりました。

私事としては来年春から大学院へ進学する予定としています。研究に従事するにあたり、ASH で成果を発表したいと感じ、意欲が湧ききっかけになったことは間違いありません。血液内科医として今後もキャリアを積んでいくにあたり、この時期に ASH へ参加できたことはプラスに働くと確信しております。

最後になりなしたがこのような大変貴重な機会を与えて下さった NPO-JALSG の皆様に厚く御礼申し上げます。また私が日常業務を抜けて学会参加することを快諾して下さった当院のスタッフの方々にも深く感謝申し上げます。ありがとうございました。